# 私が関わったプロジェクト

## プロジェクトの概要

損害保険会社Ａ社はインターネットでの自動車保険や傷害保険などを販売している。市場のがんや先進医療に対する補償のニーズにこたえるため、このたび医療保険に新たに商品を増やすことになった。その際に今後の市場のニーズに迅速に対応できるように、汎用機で構築された現行の医療保険向けシステム（以降、旧システム）を、オープン系のＷｅｂシステムとして再構築することとなった。Ａ社は全国に数百件の代理店をもち、各代理店は新しいＷｅｂシステムを利用して、保険の申し込みの登録や、情報変更などを行う。本開発の総開発工数は約１５０人月、開発費用は約１．２億円である。工期は１年間。約８ヶ月で製造、結合テストを終え、続く４ヶ月で総合テスト、運用テストを行う。以上を踏まえ、当医療保険再構築プロジェクトを情報システム開発会社であるＢ社とＣ社が受注した。Ｂ社は新システムの基幹部分を構築し、Ｃ社はＥＴＬやワークフローなどの新システムの周辺システムを構築する。私はＢ社の社員であり、本案件のプロジェクトマネージャに任命された。

## プロジェクト関係者

情報システムの利用部門、プロジェクトの予算を承認するプロジェクトオーナー、プロジェクトメンバの所属部門の上司、外部委託先の会社などのプロジェクト関係者で構成されていた。

# 重要と考えた関係者とのコミュニケーション

重要な関係者とのコミュニケーションが不足していると、意思決定や支援が実際に必要になったとき、重要な関係者が状況を認識するのに時間がかかり、対応が遅れ、プロジェクトの進捗に影響することになる。

## 重要と考えた関係者

重要と考えた関係者は主に、次の２名である。

関係者①プロジェクトに要員を参加させている部門の責任者（部門長）

関係者②プロジェクトの予算の承認者

## 重要と考えた理由

関係者①について、メンバの残業や休日出勤が必要なとき、すぐにその必要性を共有し、必要な調整や手続きを依頼する必要があるため重要と考えた。

関係者②進捗回復や課題解決のための増員など、追加予算が必要なアクションを行う場合、すぐにその必要性を共有する必要があるため。

## 重要な関係者とのコミュニケーションの内容や方法

プロジェクト内の各会議とは別に、プロジェクトメンバの上司とプロジェクト予算の承認者を含めた進捗会議を隔週で実施し、進捗状況や課題、課題解決のためのアクションについて共有した。

## 工夫した点

工夫した点は、プロジェクト推進上のリスクと、リスクが顕在化したときに行うアクションやそのときに必要な費用について事前に承認を得るようにした。

# コミュニケーションの内容や方法についての評価と今後の改善点

## コミュニケーションの内容や方法についての評価

必要な承認をすぐに得ることができ、対応が遅れることはなかったため、おおむね成功したと考えている。

## コミュニケーションの内容や方法についての今後の改善点

会議以外のコミュニケーション手段が俗人化していたため、メールや会議資料等に関するルールを明文化し、次回以降の開発に役立てたい。

以上